

宣教ウィズ With

手をつないで放送伝道

ラジオ「世の光」
テレビ「ライフ・ライン」を
放送している協力会と
「共に」宣教を進めるニュースレター

No.11 2018.2
[不定期発行]

太平洋放送協会(PBA)

レスポンスも 神の手の内に

栃木県ラジオ伝道協力会

栃木放送からの「世の光いきいきタイム」の放送が始まって、この4月で4年が経とうとしています。

協力会では様々なことに対し、真剣に取り組んでくださっています。

どうしたらレスポンスを得られるかは、多くの地域も課題だと思います。栃木でも先生方が、心を注いで祈ってくださいています。それでは「どうしたら良いか」ということになり、私個人に何か秘策があるわけではありませんが、ただ、祈ることに加えて何かアクションを起こすことも、何とかして神の愛を伝えるということを考えて大切なことなのではないかと思えます。

それで、昨年は番組モニターカードを地域100名の方にお送りして、番組を聞いての感想を送っていただきました。返信は1割ほどでしたが、その中には本当に真剣に聞いてくださり、応援の気持ちを持ってくださっている方からのおたよりもあり、私たちも大変励ま

されました。

また、昨年5月ラジオの羽鳥明先生の特番組に対し、昔から「世の光」の放送をご存知の方々からおたよりをいただきました。

クリスマス時期には、協力会で番組宣伝のカード（はがきサイズ）も作成。クリスマスの諸集会で宣伝がなされています。

番組に1枚のおはがきをいただくというところが、思いのほか苦労があるのはなぜなのでしょう。わかりません。しかし、だから一枚のおはがきの重さがわかるということは確かです。そして少なくとも、数だけではないということがだんだんわかってくる様に思えます。おはがきの数は少なくても「教会に行きました」「受洗します」など、良き報告を頂くこともあるからです。

私が、PBAのフォロアップを担当するようになって間もなく、ひとつの放送局の世の光を任せられました。しかし、おはがきの数はなかなか増えず、気持ちが重くなったことを覚えていています。やがて、担当は終わりを告げる

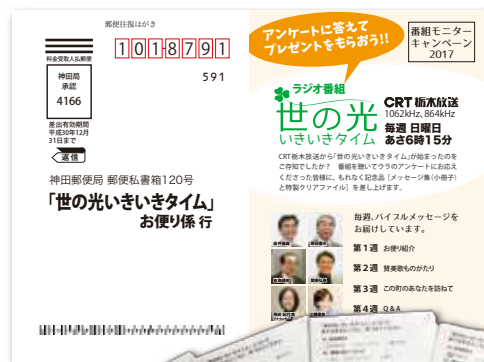
のですが、心ならずも少しほっとしたような気持ちになった自分が申し訳なく、とても残念に思いました。

今、担当している番組も、一時はレスポンスが、振るわない時がありました。しかし、苦い経験とともに「このままではいけない」とも思っていたので、大したことはしていません。手紙の返事を書き続け、私に出来ることをひたすら続けたのです。そうして気が付いたら、いつの間にかレスポンス数は増え、また新しい方々のおたよりも絶えなくなってきました。それは私のわざではないことは歴然としています。

扉は私たちの神様への信頼と、強い願いによって開かれると信じています。

ひとりの人の救いのために、何が功を奏するかは神様の手の内にあります。良き力を頂いて前進する協力会のため、お祈りをお願いいたします。

宣教協力アドバイザー 石原由美子



ぎっしりと文字が書き込んで返信して
くださったモニターカード

各地の活動 Flash!!



少ない人数での協力会ですが、さらにお働きが祝福されますようお祈りください。

宮城県は、東日本大震災の被災地ですが、被災した教会も新たに教会堂が立ち上がり、これから新たな一歩を踏み出す時期でもあります。

宮城県は、東日本大震災の被災地ですが、被災した教会も新たに教会堂が立ち上がり、これから新たな一歩を踏み出す時期でもあります。少ない人数での協力会ですが、さらにお働きが祝福されますようお祈りください。

2017
12/8

「世の光」宮城放送伝道協力会 「世の光みやぎクリスマス」

昨年12月8日に、「世の光みやぎクリスマス」が仙台市戦災記念館で行われました。

今回は羽鳥頼和師が、メッセンジャーをしてくださり、尚綱（しょうけい）学院高等学校合唱部の皆さんがゲストとして美しい歌声を聴かせてくださいました。

また、集会が始まる一時間前から「放送伝道感謝のつどい」を行い、宮城県での放送伝道の歴史をパネルにしたり、昨年、天に召された羽鳥明師の働きなども映像を用いて、お出でくださった方々に見ていただきました。

実は、この集会を主催する「世の光」宮城放送伝道協力会の委員は、現在3人。昨年、お二人の方が他の地域に赴任されてしまったためです。そのような中での集会の主催は大変なことです。しかし、背後で教会員の方々が本場に多くの働きをしてくださっている姿を拝見し、一緒に参加したPBAのスタッフも励まされました。

さて、他の地域もそうかと思いますが、同じ宮城県でも地域の教会は離れているため、ひとつところに集まることは難しくなっています。しかし、10月に教会訪問を行い、少しずつですが、前回よりも多くの方が参加してくださり、良き交わりを持つことができました。

放送伝道ヒストリー 各地域での放送伝道の歴史

山形「世の光」放送伝道協力会

山形県で「世の光」の放送が始まったのは1968年、50周年を迎えます。当時の様子を初代協力会の委員長、川崎廣牧師に伺いました。

きっかけは同年10月に、山形第一聖書バプテスト教会の秋の伝道集会に羽鳥明牧師を招いた時、羽鳥牧師からの、「山形放送から、ぜひ『世の光』を送ってほしい」という呼びかけだったとのこと。

初めは気軽に考え、海外からの支援によるものだと思っていたものの、「日本の教会がこの働きを担って放送をするようにしたい」ということで、これは一人では決定できないと、山形県の諸教会に呼びかけたところ、翌日9名の牧師が集まってくださったそうです。当時、月に6万円ほどの放送料が必要で、

「ただ、素晴らしいと思ったのは、皆さんとても楽観的。悲観的な方がいなかった」とのこと。ぜひ始められるように準備しましょうということになり、協力会の名前を決める時、これからの時代は「世の光」以外にもいろいろな福音放送がでてくるかもしれないから、「世の光」に限定せず「山形県放送伝道委員会」にしましょうということに。これが、山形「世の光」放送伝道協力会の前身です。

その後、羽鳥牧師から「11月から開始します」との連絡。山形ではようやく委員会を組織して、どうやってお金を集めようかと話し合っている段階。当時は、15分番組の「世の光」が放送は朝9時10分という、とても良い条件でしたが、なかなか献金は集まらなかったそうです。

しかし、それでも放送は継続されていたといいま

す。当時の『PBAだより』を見ると、山形県が郷里の鈴木留蔵氏が不足分を補ってくださったと、それから何年間かは鈴木氏が応援してくださったことがわかります。山形では、とにかく皆さんが献げてくださったものを送ることで精一杯だったとのこと。

支えてくださった教会の中には、当時、「山形放送の電波が弱くてあまり聞こえない」という地域の教会もありました。でも、たましいの救いのためにということに応援していただき、他の教会にも呼びかけていただきました。やがて、協力教会は徐々に集められ30教会ほどに増えていきました。

教会の他に、個人やクリスチャンの事業家も協力をしてくださった他、山形県内の幼稚園なども加わり、徐々に協力の輪が広がっていったといえます。「放送伝道は、その背後に、支えてくださった多くの方がいるからこそ継続されてきたといえます。」

また、資金面だけでなく、縁の下の力持ちとなっていてくださった方々。ある方は私書箱からお便りを回収して返事を出すまで、一人で全部やってくださり、召召されるまでご奉仕してくださいました。またある方は、「でんわ世の光」のためにオンエアしたものを録音して、一字一句、テープ起こししていました。何月何日のだれだれ先生がという質問を受けた時、ノートだとすぐに答えることができるからということだったそうです。

このようにして、山形県での放送伝道は、当時なしえなかった山形県内の諸教会、クリスチャンの協力によって「日本の諸教会がこの働きを担って放送をする」ということが実現されてきたのです。



現委員長
鳥居完次牧師



初代委員長
川崎廣牧師

『宣教 With』は、各地の放送伝道協力会に向けた広報誌です。各地の協力会のお働きの紹介をしながら、皆様と共に宣教の働きをさせていただいている太平洋放送協会(PBA)のことについても、情報をシェアできればと思っています。